

詩・短歌

よきおとこ

与謝野鉄幹



周南市
(1873～1935)

与謝野寛（鉄幹）は、赤松家の養子となつた兄に招かれて、私立白漣女学校（後の私立徳山女学校）の国語漢文の教師として徳山に来た。明治二十二年、十七歳の時である。徳山滞在の三年間は忘れがたい青春の一時代であつた。女学校時代の教え子浅田サダとの恋愛と我が子の死、最初の妻林タキノとの出会いと別れ、寛（鉄幹）の若いときの足跡が徳山にある。寛（鉄幹）は折々徳山に立ち寄つたが、昭和九年、徳山鉄板会社（日新製鋼の前身）の社歌の作詞のために来徳した時の、「徳山にて」二十首が残されている。

（玉野由槻雄）

【主な著作】

『孝女阿米』（防長婦人相愛会、明治29年）

詩歌集『片袖』第1～3（東京新詩社、明治34年～35年）

『明治文学全集』第51（筑摩書房、昭和52年）